ベストクラス選定理由書

作成者：安部洋一郎，瀬川奈美，松村宜彰，久松未樹，宮元博章，藤木裕一

科目名称　生徒指導と学校教育相談　昼間・夜間クラス （担当教員名：金山健一）	
課　　程　：大学院（修士）	開講時期　：　前期・集中
授業形態　：　講義・演習	授業規模　：　31 人以上
インタビュー対象教員名　金山健一（神戸親和女子大学教授） （実施日時：平成 28 年 8 月 4 日（木）14:30～15:30　；　実施場所：神戸ＨＬＣ「演習室３」）	
インタビュー対象受講者名　川浪幸子，宇崎貴雄，秋山浩平 （実施日時：平成 28 年 7 月 28 日（木）16:30～18:00　；　実施場所：総合研究棟「中会議室」）	

選定理由

本授業は昼間、夜間の合同クラスで集中講義により行われた。様々なコースから現職教員や教職を目指す院生、教員以外の業種の人など多様な立場・世代の受講生が集まったが、３日間のアクティブ・ラーニング型の講義・演習を通して受講生同士が交流を重ね、授業終了時には教室全体が和気あいあいとした雰囲気になっていたという。それは本授業がソーシャルボンド（社会的絆）理論をベースとし、生徒指導において問題が生じた後での一部もしくは特定生徒への指導よりも、むしろ問題を予防するための、すべての子どもを対象とした学級づくり、仲間関係づくり（一次支援）が重要であることが提唱され、それを正に“この授業（クラス）の中で”実現し、体験することが試みられたことによる。すなわち、授業の中で理論と実践の融合がなされていたと言えよう。

そのために教員は、人間関係づくりやグループワークを促進するための様々な実用的な、かつ理論に裏付けられた手法を盛り込んでいる。たとえば、毎時間席替えをし、その都度、隣同士で自己紹介を兼ねたアイスブレークを行ったり、講義の中で簡単なクイズを出して話し合わせたり、ある学年の子どもを想定した双六ゲームを作成する課題を出したりといった、楽しみながら、考え、交流する活動を数多く行っている。また、事例を基にした話し合いなどでは、まず個人で考えること（個人思考）を大事にし、次いで隣同士で意見交換（ペアワーク）、数人グループでの話し合いへと徐々に広げていき、最後に個人思考に戻るという流れを基調としていた。こうすることですべての人が必ず一度は話し、聴いてもらえる機会が保障される。教員は学生のどのような発言や質問に対してもしっかりと受け止め、よい点を褒めている。こうした討論の枠組み設定や支持的なフィードバックにより、内気で話すことが苦手な学生も「させられ感」なしに自然と話しができたという。

また、話し合いの中で学生から出た意見や疑問に応じて、教員が関連する資料を提示し、次の話題につなげていくといった自在な展開も時にあったようで、教員が一方的に押し進める授業でなく、学生達との双方向のやりとりを通して共に進めていく授業になっていたことがうかがわれる。

この授業で扱われるトピックはどれも教育現場における切実な、しかも正解の出ない問題である。教員は事例を取り上げる際には、特殊すぎる事例ではなく、様々な校種や場面に汎化可能な事例をモデルとして選ぶよう心がけているという。それによって、１つの事例を各々の学生が置かれている情況やこれまでの経験に照らしつつ検討し合い、多様な理論的視点から問いを立て、当事者意識をもって、「自分ならどのような実践が可能か」を省察的に探究することができるからである。

教室成員の関係づくりを基盤に充実した学びを成立させた本授業をベストクラスに選定する。